

## 6年「近代国家に向けて」にプラスワン

(教科書では『小学社会6上』p.106~115)

明治政府にとって、江戸時代に結ばれた不平等条約を改正することは、何としても達成したい悲願だった。日本は、欧米列強の植民地にこそならなかったものの、同等には扱われていなかった。「不平等」とは言い換えれば、欧米諸国が「上等」であり、日本は「下等」に位置づけられていたということである。富国強兵に努め、産業を興し、軍備を増強したのも、憲法を制定して、議会を開いたのも、国民のためであると同時に、一等国の仲間に入るためでもあった。

授業では、不平等条約による苦しさや悔しさを児童に実感させ、条約が改正されたことに対する喜びを体験できるように、指導を工夫していきたい。

### 1 「つかむ」段階に、教科書にない資料を提示して、児童の問題意識を高める

教科書 p.106(資料ア)には、フランスの風刺画家ジョルジュ・ビゴーの描いた絵が載せられている。教師用指導書にも書かれていることだが、実は、この絵は1886(明治19)年に起こったノルマントン号事件そのものの様子を描いたものではない。ノルマントン号事件の際のイギリスの対応を批判するために、翌1887年に起こったフランス船メンザレ号遭難事件を利用して描いたものだ。そのため、おぼれている人々はいるものの、表情に切迫感はなく、波は穏やかである。

ノルマントン号事件の悲惨さを感じさせるには、以下のような資料も提示するとよい。

#### ○『紀伊海難船之図』(和歌山市立博物館所蔵)

※文化庁運営サイト『文化遺産オンライン』より検索し、閲覧可。

また、当時の人々が、ノルマントン号事件をどのようにとらえていたかも児童に伝えるとよい。

当時の東京日日新聞(現在の毎日新聞)には連日、事件の顛末、裁判の傍聴記、事件に関わる演説、遺族への取材、義援金の募集など、ノルマントン号事件に関する様々な記事が掲載されていた。

- 犠牲者の中には、嫁入り道具のたんすを持ち込んで乗船していた女性もいた。
- 全国数千人から義援金が送られた。英国人からも送られた。日本銀行の行員達からは46円90銭もの大金が送られた。
- 横浜や浅草では演説会が開かれ、駿河台の英和女学校では犠牲者の追悼会が行われるなど、数々の集会がもたれた。

また、ノルマントン号事件以外にも、治外法権による様々な事件が起きている。

- ヘスペリア号事件 … 1879(明治12)年、九州や神戸・大阪で流行したコレラが横浜・東京に蔓延するのを防ぐために、政府は入港する船の検疫を行う規則をもうけた。しかし、コレラ流行地からやってきたドイツ船ヘスペリア号は検疫を拒否。治外法権から規則を強制執行することができず、そのまま横浜に入港した。その後、コレラが流行し、国内のコレラによる死者は、1879年だけでも10万人を数えた。ヘスペリア号が直接招いた惨事であるとは必ずしも言えないが、コレラ蔓延の原因の一つになった可能性はある。

○ハートレー事件 … 1877 (明治 10) 年, イギリス人ジョン・ハートレーが生アヘンを密輸入。アヘンは輸入禁止品目だったが, 日本の訴えに対し, イギリス領事裁判は, 「アヘンは薬用。関税を払えば無罪。」という判決を下した。

これらの資料は B4 サイズ一枚程度にまとめて児童に配付し, 読み取らせてから次のように発問する。

- T) 当時の人々は, どう思っていたでしょうか。
- C) がまんでできない。
- C) 早く条約を改正してほしい。

児童は, 当時の人々の立場になって, 外国に対する怒りを感じたり, 明治政府に対する願いをもったりすることだろう。そして, 次の発問をする。

- T) あなたなら, どのようにして条約を改正していきますか?

「明治政府は, どのようにして条約を改正したでしょう」と発問したのでは, 知識のある子しか考えをもつことができない。「あなたが, 明治政府の人だったら, どのように条約を改正しますか」と尋ねてもよいが, 政府の立場に立つという設定に抵抗感をもつ児童もいる。「あなたならどうしますか」という問いに対しては, 知識のない児童でも気楽に考えやすいため, 様々な考えが出てきやすい。

- C) 外国と話し合う。
- C) 日本の文化を伝えて, 対等な立場にする。
- C) 武力を強くして, 力尽くで条約を改正する。
- C) 産業を盛んにしたり, 貿易を増やしたりして, お金を稼ぐ。
- C) 外国の文化や考え方をさらに学ぶ。

このように予想を立てさせることで, 学習に対する主体性が高まっていく。また, 予想を立てると, その考えが正しかったかどうか確かめたいくなるものだ。ここに挙げられた児童の考えは, 次時以降の調べる内容, つまり学習計画になっていく。

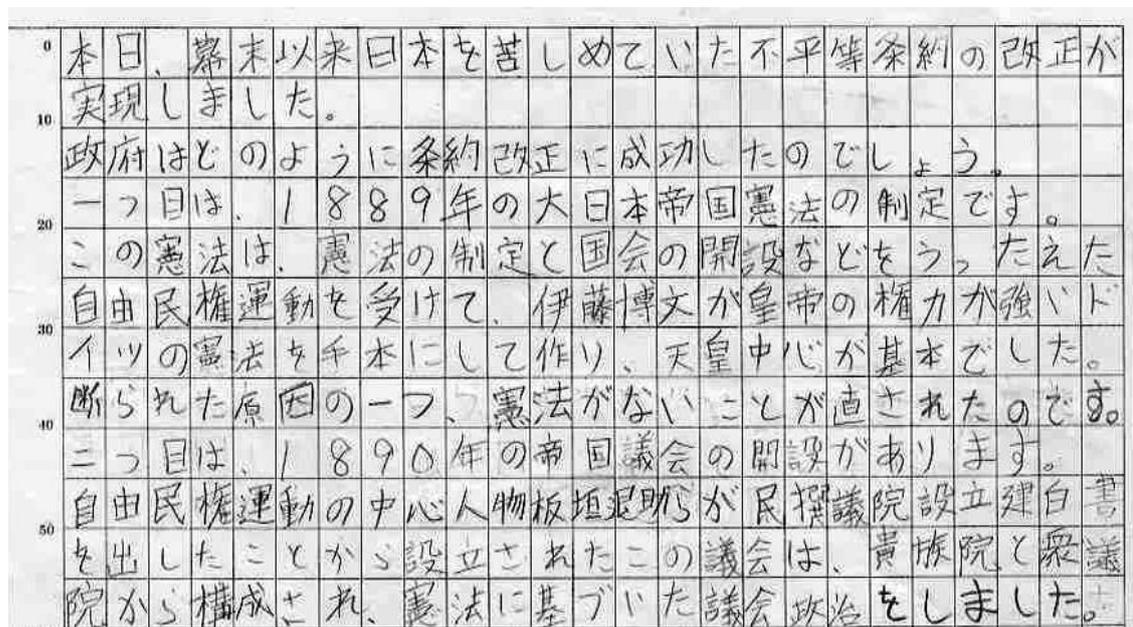
## 2 調べる活動に, ニュース原稿を書く活動をプラスワンして, 多角的な見方を深めていく

「調べる」段階で, 調べた内容をノートに記録させる活動にすると, 教科書の文章を丸写ししてしまう児童が出てくる。調べたことを再構成しながらまとめさせていくために, 条約改正を達成した日のニュース原稿を書くという活動を設定すると, 児童は情報を整理しながら, 当時の人の立場で表現できる。児童にとっては初めての活動なので, 書き出しだけは先に提示する。

本日, 幕末以来, 日本を苦しめていた不平等条約の改正が実現しました。政府はどのようにして条約改正に成功したのでしょうか。

この書き出しは、児童によってはオリジナルの文に変えてもよいことにする。

児童が書いたニュース原稿の一部を紹介する。



この原稿には、大日本帝国憲法の発布や国会の開設について書かれている。現行の教科書では、前小单元「新しい時代の幕あけ」で学習するが、この実践を行ったときには、本单元の調べる内容にそれらを含めたためである。

毎時間の後半に、調べた内容について原稿を書く時間をとるようにする。初めのうちは要領の分からない児童もいるだろう。個別指導を丁寧にしたたり、友だち同士で教え合うようにしたりして、書き進めていけるようにする。

一人で原稿を書くことが難しければ、グループで分担して調べ活動を行う方法も考えられる。その場合は、巻末の年表を使って、調べる内容を分担させる。まず、1911年に不平等条約が完全に改められたことを全員で確認した上で、次のように指示をする。

T) 1911年までの出来事で、条約改正に関係のありそうな出来事を選びましょう。いくつか出てきたら、どのような出来事だったのか、条約改正に関係あるかどうかを、グループで分担して調べましょう。

各自が書いた原稿を一つにまとめれば、ニュース原稿が完成する。最後には、ニュース原稿を発表し、互いのがんばりを賞賛し合うと達成感を味わえるだろう。

なお、ニュース原稿を書く活動は、豊島区立千早小学校 仲純平先生の実践を紹介させていただいた。

(2016年9月)

あらし げんしゅう  
嵐 元秀

東京都の公立小学校教師。教師歴28年。

楽しみながら、調べ・考え・表現する力が高まっていく  
社会科授業を旨として研究・実践をしている。